

ニーズレター

発行日 2019年4月26日
特定非営利活動法人 グループホームネット香川

春号



朝日山(高瀬町)から象頭山を望む

.....

もくじ

○ 理事巻頭言	2
○ 避難訓練を振り返って	4
○ 利用者の声	6
○ 事務局だより	7
○ 編集後記	8

すべては財産

副理事長 梶 美幸

今から約30年位前、作業所のスタッフとして就職した私は大きな衝撃を受けました。毎日毎日、朝9時から夕方4時まで繰り返される単純作業。15人ほどが輪になって誰一人愚痴を言わない。そこでの会話は病気のことばかり。「何でこんな病気になったんやろか?」「いつになったら治るんやろか?」「美幸さんはええなあ。病気でないから俺らの気持ちわからんやろ。」会話も私にとっては考えさせられるものでしたが、何よりも終わりのないこの単純作業!作業工賃も信じられないくらい安く、真っ先に私は音を上げてしまいました。

作業の不満を言う私に「そんなこと言うたらいかん!お母さんたちが一生懸命見つけてきてくれた仕事や!俺たちにはこの仕事があるだけでも有難いんや!」私は返す言葉がありませんでした。何もわかっていなかった自分を恥ずかしく思うと同時に、怒りがこみ上げてきました。このままでは絶対に駄目だ!障害者が作った物だから安い、障害者の仕事は安くていい、そんな時代でした。

作業も大事、でももっと彼らの声を聴こうと思い、何よりも優先してミーティングを始めたのでした。その中で語られたことは私にとっては本当に勉強になりました。

『福祉』に関わる仕事がしたくて、施設職員をしていたけれども、何かが違う!と職を転々としていた私が、やっと見つけた『自分がしたいこと』がここにあったのです。それは地域での暮らしでした。

ある日、作業所のことを話してほしいという講演の依頼がありました。あまり人前で話すことが好きではない私は「心細いからついてきて欲しい」と作業所のメンバーに話したところ、二人のメンバーと一緒に来てくれました。カーナビのない時代、予め地図を開いて、それぞれが国道何号線だの県道何号線、どこを曲がって…と確認をし、分担して記憶し、せっかく行くんだから、なんか喋ろうかなど言い合って当日を迎えました。



当日の会場では二人のメンバーのほうが人気者です。当然です。当時は障害者と呼ばれる人が人前で話す機会があまりなかったのです。みんなが聞きたいのは本当の話です。当事者が感じていること、願っていることなのです。

ギャラは3人で山分け。帰りの車の中で「こんなに貰っていいの?」「美幸さん、コーヒーを奢ってあげるわ」「自分たちの経験したことが、こんなに人の役に立つとは思いませんでした」「病気で何もいいことはないと思っていたが、そうではないんやと気が付いた」「病気の経験をしている自分だからこそ、できる事があったんや」「また講演依頼があったら連れて行ってな」その日から、メンバーは交代で私について行ってくれました。

どんな経験も、自分を作ってくれている。恥ずかしいことも失敗も。人を許すということも。そんなことを私に教えてくれた作業所のメンバーでした。(沢山の失敗、失礼な態度をメンバーは笑って許してくれました。)今、そんな人生のあらゆることが自分の財産であると思っています。



紫雲出山から瀬戸内海を眺む(仁尾町)

夜間防災訓練について

サービス管理責任者 増田 周作

グループホームでは、年2回避難訓練をすることが義務付けられており、そのうち1回は夜間を想定した訓練をすることになっています。

2018年度は、実際に夕方暗くなってから訓練を実施することにしました。

避難訓練は、事前に入居者会議で打ち合わせをしてから行っています。グループホーム毎に建物の構造や入居者メンバーの違いがあるので、それぞれのグループホームで注意事項について話し合ってから実行しました。

今回は、職員が不在の場合という条件は同一にして、その他の内容については、それぞれのグループホームで打ち合わせした内容に従って実施しました。

訓練に参加した入居者と職員で、当日の様子を振り返って座談会を開催しました。各グループホームを代表して入居者6名が出席しました。

まずは、避難訓練で実施した内容について、それぞれのグループホームを代表して、参加者に話を聞くことからはじめました。

これまでの訓練では、各グループホーム単位での振り返りはしたことがありましたが、各自が住んでいるグループホーム以外の話は聞く機会がなかったので、参加者にとっては新しい体験になりました。

話を聞いていく中で、避難の際に各グループホームで事前に決まり事を作っていることがわかり、チャイムの鳴らし方を決めているという話題になりました。

チャイムの鳴らし方については「3回連続で鳴らす」「連続で何度も鳴らす」とそれぞれのグループホーム毎に決めていると入居者から話がありました。

私たちのグループホームは民間のマンションを借りていることもあり、普段からいろんな人が訪ねてきてチャイムを鳴らします。そこで、通常と区別していち早く気づいてもらうために、緊急時には特別なチャイムの鳴らし方をみんなで話し合っ
て決めて約束事にしたとのことでした。



反省点としては

- 慌てて避難したら携帯電話を忘れて出てしまった。

訓練だと取りに戻ることもできるが、実際の火災のときには取りに戻ることはできない。

⇒ 消防隊員や近所の人に事務所へ連絡してもらう。

〔 夜間や休日等でホームワーカーが不在の時は、共同部屋か法人事務所に電話すると職員につながるので、一報を入れて職員に無事を知らせるため。 〕

事務所などの緊急連絡先を、持ち出し袋の中に一緒に入れておく。

- 訓練だからということで、鍵をかけて外に出たという人がいた。

⇒ 鍵を掛けずに避難する、早くみんなに知らせる、火が大きいときは消火より避難を優先するなど、基本的な避難の仕方について毎回確認しておく。

- 年齢によって避難の仕方が変わる。

若い入居者と高齢の入居者とでは逃げるスピードが違ったり、人によってはすぐに動けなかったりすることがあった。

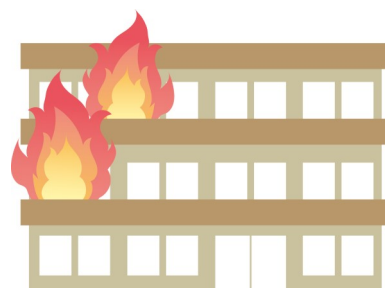
⇒ 入居者同士でお互いにどうサポートし合うかを話し合っておく。

避難できる体力づくり、健康づくりを日頃から心がけて、逃げ遅れないようにしておく。

最後に、訓練の日時を前もって打ち合わせていたので、参加者は最初から出火の予定が分かっていて、その時間に待ち構えていたというのですが、実際の火災はいつ起こるかわからないので、訓練の時間も最初から決めてしまわず、幅を持たせてその中で実施したらいいのではないかという提案が出されました。

この提案には参加者みんなが納得して、ぜひ次回の避難訓練から取り入れるようにしようということで意見が一致しました。

初めての試みでしたが、非常に活発に意見交換がなされ、次につながる収穫がたくさん得られた座談会になりました。



利用者からの声

「波乱万丈」

ハナミズキ

約2年前、グループホームに入居した。入居当初は、お金のことで悩んでいた。

贅沢をしているつもりはなかったが、収入の範囲内で生活できなかった。自分の理想とする生活とは程遠いものだった。また、支払いが滞っているものもあった。払いたい気持ちはあったが、払ってしまうと生活が出来ない。まずは収入を増やそうと、仕事を再開してみたが職場の人間関係や働く環境の問題、体調が落ち着かず続けられなかった。

何から解決していったらいいのか、分からないまま過ぎていった。

周囲の勧めもあり、市社協の日常生活支援事業を使ってみることにした。しかしこれまで自分の手元にあった通帳や印鑑を預けること、自分の好きなタイミングで残高を確認できないこと、人に任せることが不安になりしんどくなった。利用開始後、一ヵ月で解約した。

昨年の2月頃から、体調に異変を感じ始めた。自分が何をしたらいいのか考えられない、毎日何を食べたらいいか、買い物に行って何を買ったらいいのか分からなくなった。

精神科に入院してみたが、自由に煙草が吸えないしんどさと、病棟が賑やかで落ち着かず退院した。5月に入り、更に体調が不安定になり、生活ができなくなっていた。同じグループホームの入居者に相談し、近くの内科を受診して入院となった。あまり良いところとは言えないが、考えずとも時間になれば食事が出るので、落ち着く時間ができた。一人になってこれまでの生活を静かに振り返った。

困っている状況をどうにかしないといけないと思うけど、なかなか考えがまとまらない。

色んな意見やアドバイスをもらっても、頭に入ってこなくて実行できなかった。食事のことを考えなくてよい環境は、心に余裕がでた。

じっくり考えることができたので気持ちが落ち着き、考えもまとまるようになり、自然と周囲の人の言葉が入ってくるようになった。



他の入居者の生活の様子を聞き、自分でできそうなところは取り入れるなど、これまでと生活の仕方を変えてみた。お金の悩みは、自分が苦手な部分と割り切り、市社協に再度依頼した。

再利用できるまで容易ではなかったが、絶対に必要なサービスだという気持ちを伝え、周囲の力も借りて再開できるようになった。すると生活はちゃんとできているのに、滞っていた支払いもどんどん解決していき、残すところあとわずかとなった。誰より自分が一番驚いている。初めはグループホームに入ったら、悩みや問題は何とかしてくれると思ったが、何とかするのは自分自身だと気が付いた。

グループホームでの2年間は、浮き沈みが大きかった。一言で言うなら「波乱万丈」。これまでは直ぐに考えられたし、行動にも移せていた。本当はそれが自分にとって調子がいいことだと思っている。

でもこれからは、お金や生活の心配をしなくていいように、自分にブレーキをかけつつ積極的に行動し、生活にメリハリをつけて、もっと笑顔で充実した日々を送りたいと思っている。

事務局だより

事務局 岩佐 亜紀

■ 事務所の移転のお知らせ

2018年4月から、障害福祉サービス費の報酬改定により収入減となり、どう乗り切るのが喫緊の課題でした。その方策の一つとして、事務所費用の軽減のため円座町から成合町に移転しました。若干、手狭になりましたが、市内により近くなりました。

2019年4月1日から下記の新住所にて事務所を開所しております。

お近くにお越しの際は、どうぞお気軽にお立ち寄りください。

〒761-8081 高松市成合町559番地15

TEL 087-885-5270 FAX 087-887-5955（変更なし）

開所時間 平日10:00~18:00 土日祝 休み

■ 2019年度総会開催日時のお知らせ

毎年度6月第2水曜に開催しております定時総会について、2019年度も下記の通り開催の予定です。正会員の皆様には、追って別便でご案内いたします。

日 時 2019年6月12日（水）19:30 開会予定

場 所 グループホームネット香川 新事務所

正会員・賛助会員を募集しています

新規入会も随時受付しています。入会ご希望の方は、事務局までご連絡下さい。手続きのご案内をいたします。

- ご入会いただいた方には、機関誌「ニーズレター」（季刊）をお送りし、またホームページの会員ページへログインできるようにご案内いたします。
会員の方が参加可能な研修を不定期で開催する場合があります。
- 正会員の方には、総会での議決権がございます。総会開催の2週間前までに郵送にてご案内をお送りいたします。

正会員 3,000円 賛助会員 2,000円

【百十四銀行】 中央市場支店 店番 213
普通預金 0252017
特定非営利活動法人 グループホームネット香川

【郵便局】 01670-4-5576
特定非営利活動法人 グループホームネット香川

編集後記

今回、精神障害者に対するサービスということで、いろいろ周囲の方にお話を聞く機会がありました。その中でほとんどの方が障害者が住みよい地域をと言われ、そのようなサービスを強く望んでいるということがわかりました。

そんな折、大阪精神医療人権センター副代表の山本深雪氏のお話を聞く機会がありました。住みよい地域というものは、誰に対しても優しい、思いやりのある、笑顔であったり、心遣いだということを言われました。

そのことから、サービスを提供する側は相手を思いやり、そして受ける側はサービスをテコに精神的に安心のある生活を築ければと。また、精神病の正しい知識を早い段階で教育の現場で取り入れ、できるだけ多くの人たちに学んでもらい、理解してもらうことが偏見のない住みよい地域づくりになると感じました。（天満）

（発行）特定非営利活動法人 グループホームネット香川

連絡先： 香川県高松市成合町559番地15

TEL：087-885-5270 FAX：087-887-5955